



# JR東労組仙台

East Japan Railway Workers' Union SENDAI  
東日本旅客鉄道労働組合 仙台地方本部

発行者:佐々木克之

編集:情宣部



2024年3月11日 No.59 東北三地本HP

## 東日本大震災から13年

2011年3月11日、午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。最大震度7を観測し、岩手、宮城、福島沿岸部では大規模な津波が発生し多くの尊い命が犠牲になりました。「震災関連死」を含めた死者と行方不明者は、あわせて2万2222人にのぼります。(2月1日現在)

震災から13年が経過し、住宅再建や道路整備などが進んでいる一方、東京電力福島第1原子力発電所事故により、一部で現在も帰還困難地域に指定されており、今もなお故郷に帰れない人が多くいます。そして、先の見えない廃炉作業が現在も続いており、復興は道半ばにあります。

私たちは当時、仲間や家族、親族の安否を心配する中でもお客さまの安全を最優先し、全員無事に避難することができました。また、全国の仲間から心温まる支援を多くいただき組合員の元へ支援物資を届け、労働組合の枠を超えて行動してきました。そして、私たちは全国の仲間が手を差し伸べてくれた力で逆境を乗り越えてきました。

東日本大震災は私たちに様々なことを教えてくれました。水や電気、ガス等がなければ何もできない人間の弱さや普通の生活ができることの尊さを実感しました。そして、人は一人では生きていけないこと、励まし合いながら地域や職場での絆を深めていくことを…。

JR東労組として東日本大震災の大きな教訓は「抵抗とヒューマニズム」です。死亡者ゼロを実現できたのも、日頃の組合活動におけるその精神のたたかひの積み重ねが根底にあります。東日本大震災以降、全国各地で地震や風水害などの自然災害が多く発生しています。防災意識は災害を他人事ではなく「わがこと」として捉えることで養われます。一人ひとりが災害を記憶し備えを万全にすることが大切です。

これからも地域と共に歩み、東日本大震災を後世に伝える取り組みを継続して展開していきましょう。

## 東日本大震災から13年

仲間との絆で乗り越えてきた教訓を今後に活かしていこう!